

[抄録様式]

公益社団法人 8020 推進財団 平成 28 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録
1.事業名：在宅歯科診療支援歯科衛生士認定登録事業
2.申請者名：一般社団法人北海道歯科衛生士会
3.実施組織：一般社団法人北海道歯科衛生士会
4.事業の目的及び概要： (目的) 在宅歯科診療に必要な知識や技能を習得し、在宅歯科診療の専門性を高めた歯科衛生士を育成し認定することにより登録制度を設け、広域である北海道での在宅歯科診療への歯科衛生士の配置に努めることにより、地域住民の健康と福祉の増進に寄与すること (事業概要) ①在宅歯科診療支援歯科衛生士研修会の開催 ②在宅歯科診療支援歯科衛生士認定登録 ③在宅歯科診療支援歯科衛生士委員会の開催
5.事業の内容： ①在宅歯科診療支援歯科衛生士研修会の開催 ・在宅歯科診療に携わる際に必要な基礎知識を習得（講義形式・ワークショップ形式） ②在宅歯科診療支援歯科衛生士認定登録 ・最終講義終了後、認定試験を実施。合格基準に達したものを北海道歯科衛生士会在宅歯科診療支援歯科衛生士として認定登録 ③在宅歯科診療支援歯科衛生士委員会の開催 ・在宅歯科診療支援歯科衛生士研修内容の検討 ・認定登録に関する認定要綱等の管理 ・認定登録の為の認定申請書の管理 ・認定者名簿の作成 ・認定証の作成
実施後の評価（今後の課題）： ・研修会終了後のアンケートによると、受講者の年齢区分は 20 代～60 代、歯科衛生士勤務歴も 5 年未満から 30 年以上と様々な段階での参加者の分類となった。勤務先は約半数が診療所の勤務、その他は病院や行政、養成校などがみられたが、介護保険施設に勤務する歯科衛生士の参加もあった。現在在宅診療に携わっているものが約 33%、携わっていないものが約 35%、いつか携わりたいが約 20%であった。 講演内容について、よく理解できた・概ね理解できたが 92%を超え、研修内容にも満足している事がうかがえた。ワークショップでは、本会が 5 年前に作成した「在宅歯科診療ガイドブック」を昨年度のワークによって修正し作成した「在宅歯科診療ガイドブック改訂版」を再度見直し、「完全版」を作成するというグループワークを行った。昨年度の改訂版を実際に使用してみるワークショップを行い、使用感を実感し、修正加筆が必要な部分をグループワークにて整えた。それぞれの地域の歯科衛生士がともに作業することにより交流を深め、歯科衛生士同志の情報交換が出来たことが伺え、そこから医科歯科連携、チーム医療の前に、歯科間の連携が必要であることを再認識していただいた。お互いの情報を交換し、今後別の機会でも交流出来るよう努めた。認定試験を設けたことにより一層熱心な受講となり、合格者には北海道歯科衛生士会在宅歯科診療支援歯科衛生士の自覚を持っていただくことが出来たと考える。今後も研修内容、登録制度の充実を図り、北海道での在宅歯科診療に携わる歯科衛生士の資質の向上と連携の重要性を図っていきたい。